

令和7年6月議会報告

鼓笛活動の教育的意義と今後の在り方

【背景・現状】

鼓笛活動は、日田市の小学校で長く継承されてきた教育行事であり、児童が協調性や責任感を学ぶ重要な活動として位置づけられている。令和7年度は悪天候により音楽大パレードが中止となったが、児童たちは例年通り練習に励んでいた。市民からは中止そのものではなく、代替措置や記録映像などの対応に関する公平性の指摘が寄せられた。行事を通して家庭・地域・学校が一体となる教育の在り方が改めて問われた。

【崎尾の問題提起】

鼓笛活動を教育の一環として市全体で再定義する必要性を述べた。児童の努力が家庭や地域の支えと結びつく教育効果を強調し、学校や地域ごとの判断に任せるのではなく、市として方針を示すべきと指摘。

議場では、闘病を経て子どもの成長を見守った母親の手紙を朗読し、鼓笛が親子・地域・学校をつなぐ象徴であることを紹介。この方に限らず、多くの家庭にも同じような思いがあると述べ、家庭や地域の声に耳を傾ける必要があると訴えた。

さらに、中止後の対応について「一律であることが望ましかった」と述べ、代替演奏や発表なども全体を見渡して公平と感じられる内容であってほしいと要望。また、テレビ放送についても「有料放送だけでなく、保護者全員に届ける方法を検討してほしい」と求めた。

最後に、「音楽大パレードは日田で子どもを育てる醍醐味の一つ」と述べ、今年の児童や保護者が八年後の二十歳の集いで『あの年は中止だったけれど、良い思い出だったね』と笑って語れるように、全体的な調整と配慮を求めて発言を締めくくった。

【市の答弁】

教育長は、鼓笛は音楽教育の一環であり、技能の習得にとどまらず、協調性・責任感・社会性を育む教育活動であると答弁。学校規模や地域の事情に応じた継続実施を支援する方針を示した。

市長は、鼓笛は地域文化として郷土愛を育むものであり、学校・保護者・地域が連携して継承していく重要性を述べた。

【今後の方向性】

教育委員会は、鼓笛活動の教育的意義を整理し、市全体で共有する方針を表明。中止時や代替措置の基準を明確化し、児童と保護者が納得できる統一的な実施体制を整える。今後は、教育活動としての鼓笛の継続と、家庭・地域・学校の協働による再構築を目指す。

市民の声 議場で朗読された手紙全文

私が頂いた手紙を読ませていただきます。

私は、子供を産んだときから我が子の鼓笛パレードを楽しみにしてきました。

不規則な仕事で、土日祝日、お盆、お正月、休みもない中、忙しくて最低限しか子供と向き合うことができない私の代わりに、主人が子育てにたくさん協力してくれ、いつも子供の世話を率先してくれました。

そんな中、自分が無理をしすぎて緊急入院、難病、もう助からないんだと病院のベッドの上で何回も思いました。

それでも運よく回復し、退院できたとき、ふと思ったのが、まだ当時3年生だった長男の鼓笛パレードが生きて見られるんだということでした。

退院したとは言え、普通の生活に戻るまでには1年以上かかりました。

最近、やっとじっくり子供の成長を見られるようになったことが毎日の幸せです。

そして6年生になった今年、希望の楽器になれるよう主人が新聞でバチをつくり、一緒に親子で練習して見事合格、こっそり泣きました。

そして、本番当日の大雨、仕方がないとは言え、大泣きしました。

6年生親子にとっては、一生に一度の鼓笛パレード。

私自身も鼓笛演奏は、小太鼓でしたが、何十年たった今でもリズムは覚えています。

私だけでなく、それぞれの家庭にも毎日いろいろなことがあって、いろいろな思いを抱えていることと思います。

何とか違う形でいいので、実現させてあげたいです。よろしくお願いいたします。

(議場で朗読された手紙より)